

「水害で知った家族の大切さ」

豊田市立三江小学校五年 岩本 剛

十月二十日に、ぼくは水害にありました。

その日の夜、水が家のげん鬨前まで来たので、家族みんなで引き出しやイスなどを二階まで運びました。たまたまは、台所のつくえの上におきました。二階がすごくごちゃごちゃになってしまったので、ぼくは、水が引いた後、持っ^て下りるのが大変だと思いました。ぼくは、今までの台風でもだいじょうぶだった^{ので}、あまり気にせずにあまりました。お父さんとお母さんは、水が入ってくるのをてつ夜で見えていました。

次の日、水が家の中に入^ってぼくの背の高さぐらいまでつかっていました。階段の下を見たら、道具箱がうかんでいたり、それを入れるダンスがたおれたりしていました。外も一面、湖でした。その後、ボートでひな人形をひなにしました。お父さんとお母さんは家に残り、ぼくとお姉ちゃん達だけで行きまし

た。昼はトランプなどをして遊んでいたからよかったけど、夜はよく寝られませんでした。十月二十二日に、ひなん所から家に帰りました。帰ると中には、葉っぱが一まいもない木があったり、どろだらけの家具やたたみが捨ててあったりしました。平らな道がガタブト道になっていました。家の中も外もぐちゃぐちゃで、物を運ぶのも大変そうでした。もとの生話にもどそうと、ドロを取ったり、不いたり、ゆかめ下を洗ったりしていました。

ぼくも、いところにあげようと思っていたおもちゃが、流されたりしてしまいましたが、色々な物がこぼされたり、使えなくなったりしたのでくやしかったです。

とても大きな被害でくじけそうになったけど、親せきの人達が手伝いに来てくれてうれしかったです。ぼくも、家具についたドロをとったり、電話当番をしたりして、できるだけ手伝いました。

今でもまだ、完全には元にもどっていない

けれど、家族のみんなの笑顔はもどってきま
した。もう二度とあんな台風は来てほしくな
ない、家族の大切さを感じる事ができま
した。